※令和４年度以降入学生用

学校番号	404

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	新編　数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	３TRIAL　数学Ａ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では，課題に対して，自ら考え，周りの人と共同で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で，自分の考えを発表したり，議論したりする活動を行います。
・問題集用のノートを用意してください。問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく，途中式や考え方も書くようにしましょう。また，各自答え合わせをしてください。答え合わせは，自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。家庭学習における課題は，定期的に提出してもらいます。

２　学習の到達目標

図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　場合の数と確率	第1節　場合の数 1　集合の要素の個数 2　場合の数 3　順列 4　組み合わせ	a：和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。順列や組み合わせの公式を理解し，利用することができる。 b：ベン図を利用して集合を図示することで，集合の要素の個数を考察することができる。 c：集合を考えることで，日常的な事柄などを，集合の要素の個数として数学的に数えようとする。また,順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 振り返りシート
		第2節　確率 1　事象と確率 2　確率の基本性質 3　独立な試行と確率 4　条件付き確率 5　期待値	a：確率の意味，試行や事象,積事象，和事象の定義を理解している。 b：集合の性質を用いて，確率の性質を一般的に考察することができる。 c：統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 振り返りシート
2学期	第2章　図形の性質	第1節　平面図形 1　三角形の辺の比 2　三角形の外心・内心・重心 3　チェバの定理・メネラウスの定理 4　円に内接する四角形 5　円と直線 6　2つの円 7　作図	a：線分の内分・外分，平行線と比や三角形の外心，内心，重心などの定義，性質を理解している。 b：図形の性質を証明するのに，既習事項を用いて論理的に考察することができる。また，適切な補助線を引いて考察することができる。 c：三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を，論理的に考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 振り返りシート
		第2節　空間図形 1　直線と平面 2　空間図形と多面体	a：正多面体の特徴を理解し，それに基づいて面，頂点，辺の数を求めることができる。 b:空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを，与えられた条件から考察することができる。 c：空間における図形の位置関係について，積極的に考えてみようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

３学期	第3章　数学と人間の活動	１　約数と倍数 ２　素数と素因数分解 ３　最大公約数･最小公倍数 ４　整数の割り算 ５　ユークリッドの互除法 ６　1次不定方程式 ７　記数法	a:素因数分解を利用して最大公約数･最小公倍数を求める方法を理解している。 b:　問題解決の過程を振り返って，割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 c:　日常生活における具体的な事象の考察に，約数と倍数の考えを活用しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度